

埼玉県学力・学習状況調査（中学校）

復習シート 第一学年 国語



組

番号

タ

【「言葉」を問う問題】

① 次の文の 線部に対する主語を

「主語・述語の関係」がわかっていると、文を書くときや読むときに役立ちます。「主語・述語の関係」を考えるとときには、「述語」から考えてみましょう。「主語」が見つかったら、主語と述語だけをつなげて意味の通る文になっているか確かめてみましょう。

模範解答

レベル9

② あれは祖父が野球場で撮った写真だ。

ハンカチは

あれは

③ 次の 線部の敬語の使い方として

エの中からすべて選びましょう。

よう。

レベル7

イウ

イ お客様が、めしあがるお茶。

×尊敬語

ア 先生が、絵をご覧になられる。

謙譲語

ウ 校長先生に意見を申し上げる。

エ 私の父が、こうおっしゃる

③ 次の熟語と構成（成り立ち）が同じ熟語を の中から一つ選び書きましょう。（二回以上入る記号もあります。）

レベル9

① 収支

ア

② 不正

オ

③ 存在

ウ

玉＝宝物

④ 強敵

エ

⑤ 除草

イ

⑥ 玉石

ア

ア 正誤
イ 洗顔
ウ

ア 意味が対になるもの
イ 「を」「に」に当たる意味の漢字が下に来るもの
ウ 似た意味の漢字の組み合わせになるもの
エ 上の漢字が下の漢字を修飾するもの
オ 下の言葉の意味を打ち消す漢字が上につくもの

埼玉県学力・学習状況調査（中学校）

復習シート 第一学年 国語



組	番号	名前	模範解答
---	----	----	------

【「話すこと・聞くこと」を問う問題】

- 1 星野さんの学級では、地域で働く人の仕事内容や思いを知るために、和紙職人である小林さんへインタビューをすることになりました。そこで星野さんの学級では、インタビューの内容を話し合いで決めることになりました。次はその【話し合いの様子の一部】です。これをよく読んで、あとの問いに答えましょう。

【話し合いの様子の一部】

星野 みなさんがインタビューしたいことを黒板に書かれています。しかし、インタビュー時間は十五分しかないので、内容をしばっていくのはどうでしょうか。

鈴木 そうですね。では黒板に書かれたことを分類してから検討するのはどうでしょうか。

佐藤 賛成です。それでは、仕事に和紙職人の仕事内容と小林さんの思いに分けるのはどうでしょうか。

星野 そうすると、【 ① 】は、内容や思いに入らないので、しない質問に入れていいと思います。

分類をする

鈴木 では、黒板のように整理できそうですね。

話し合いが続く

【黒板のメモ】

小林さんに聞きたいこと

- ・どんな思いで仕事をしているのか。
- ・和紙を作る工程はどんなものか。
- ・和紙にはどんな種類があるのか。
- ・和紙を作る上で大変なことは何か。
- ・小林さんは中学校時代にどんな学生だったか。
- ・和紙職人として嬉しいことは何か。
- ・何時から仕事をしているのか。

（1）【①】に入るものとして、ふさわしいものをあとの1～4の中から選んで、その番号を書きましょう。

レベル9

- 1 和紙を作る工程はどんなものか。
- 2 小林さんは中学校時代にどんな学生だったか。
- 3 どんな思いで仕事をしているのか。
- 4 和紙職人として嬉しいことは何か。

2

（2）左は、星野さんたちが実際に質問内容を分類したものの一部です。②にはどのような言葉が入るかを【インタビュー内容の一部】から書き抜きましょう。

レベル9

（和紙職人の）仕事内容

質問の種類	質問内容
②	・和紙にはどんな種類があるのか。 ・何時から仕事をしているのか。
小林さんの思い	・和紙を作る上で大変なことは何か。

復習シート 第一学年 国語



組

番号

名前

模範解答

【「書くこと」を問う問題】

1 次の問題を解きましょう。

小学六年生であるAさんとBさんの学級で行ったアンケートの結果、中学校生活に不安を感じている人が多いことがわかりました。そこで、先ばいにオンラインでインタビューをして、中学校生活の様子やアドバイスを聞くことになりました。インタビューの進め方について、AさんとBさんが話し合っています。次の会話を読み、後の問いに答えましょう。

Aさん 「私は、インタビューの前にリハーサルをするべきだと思います。準備をしておけば、安心して質問できるからです。」
Bさん 「リハーサルをしすぎると、自然な会話ができなくなるかもしれません。その場の流れで質問した方が、緊張しにくいのでよいと思います。」
Aさん 「確かに、リハーサルをすると少し緊張することもありますね。でも、全く準備しないと、質問を忘れてしまうかもしれません。」
Bさん 「それもそうですね。一方で、リハーサルをしないことで、先輩も私たちもリラックスして話せると思います。自然な流れで話すことで、先輩から予想外の興味深い話が聞けるかもしれません。」
Aさん 「それでも、私は事前にリハーサルして、インタビューの流れを確認しておく方がよいと思います。」
Bさん 「私は、準備せずにその場で対応すること、もっと自然なインタビューができると思います。」

あなたは、AさんとBさんのどちらの提案に賛成しますか。次の条件に合わせて書きましょう。

レベル8

条件① 六十字以上、九十字以内でまとめて書くこと。

条件② AさんとBさんのどちらの提案に賛成するか書くこと。

条件③ 賛成する理由を「インタビューするうえでどのような良いことがあるか」についてふれながら書くこと。

どちらの提案に賛成するか書けているか。

Aさんに賛成する場合

私はAさんの提案に賛成します。リハーサルをすることで、質問の流れが確認でき大事な質問を落とさず安心してインタビューできるからです。（64文字）

Bさんに賛成する場合

私はBさんの提案に賛成します。リハーサルをしないことで、自然な会話ができ、先輩もリラックスして話せるし、予想外の興味深い話を引き出せるかもしれないからです。（77文字）

文字数は六十字以上九十字以内か。

「インタビューするうえでどのような良いことがあるか」にふれながら賛成する理由を書けているか。

埼玉県学力・学習状況調査（中学校一年）

復習シート 第一学年 国語



組

番号

名前

模範解答

【「読むこと」を問う問題】

1 次の文章を読んで、問題を解きなさい。

二月のある日、野中のさびしい道を、十二、三の少年と、皮のかばんをかかえた三十四、五の男のひとが、同じ方へ歩いていった。

【中略】

「おじさんのポケット、なんだか、かたい冷たいものがはいつているね。これなに？」

「なんだと思う」

「かねでできてるね……大きいね……なにか、ねじみたいもんがついてるね」

するとふいに、男の人のポケットから美しい音楽が流れたので、ふたりはびつくりした。男の人はあわてて、ポケットを上からおさえた。しかし、音楽はとまらなかった。それから男の人は、あたりを見まわして、少年のほかにはだれも人がいないことを知ると、ほっとしたようすであった。天国で小鳥がうたつてもいるような美しい音楽は、まだつづいていた。

(1) の解答 うた時計の音色

「おじさん、わかった、これ時計だろう」

「うん、オルゴールつてやつさ。おまえがねじをさわったもんだから、うたいだしたんだよ」

「ぼく、この音楽だいすきさ」

【中略】

そこで、また男の人のポケットがうたいはじめた。

ふたりはしばらくその音をききながら、だまって歩いた。

「おじさん、こんなものを、いつも持って歩いてるの」

「うん、おかしいかい」

「おかしいなア」

「どうして」

「ぼくがよく遊びに行く、薬屋のおじさんのうちにも、うた時計があるけどね、だいにして、店のちんれつだなのの中に入れてあるよ」

「なんだ、坊、あの薬屋へ、よく遊びに行くのか」

「うん、よくいくよ、ぼくのうちの親類だもん。おじさんも知ってるの？」

「うん……ちよつと、おじさんも知ってる」

「あの薬屋のおじさんはね、そのうた時計をとでもだいにしててね、ぼくたち子どもに、なかなかさわらせてくれないよ……あれッ、またとまっちゃった。もう一ぺん鳴らしてもいい？」

「きりがいいじゃないか」

「もう一ぺんきり。ね、おじさんいいだろ、ね、ね。あ、鳴りだしちゃった」

「こいつ、じぶんで鳴らしといて、あんなことやってやがる。ずるいぞオ」
 「ぼく、知らないよ。手がちよつとさわったら、鳴りだしたんだもん」

「あんなことやってやがる。それで坊は、その薬屋へよくいくのか」
 「うん、じき近くだからよくいくよ。ぼく、そのおじさんとなかよしなんだ」

「ふうん」

「でも、なツかなか、うた時計を鳴らしてくれないんだ。うた時計が鳴るとね、おじさんは、さびしい顔をするよ」

「どうして？」

「おじさんはね、うた時計をきくとね、どういうわけか周作しゅうさくさんのことを思い出すんだって」

「えッ……ふうん」

「周作って、おじさんの子どもなんだよ。不良少年になってね、学校がすむと、どっかへいつちやっただ。もうずいぶんまえのことだよ」

「その薬屋のおじさんはね、その周作……とかいうむすこのことを、なんとか知っているかい？」

「ばかなやつだって、いつてるよ」

「そうかい。そうだなあ、ばかだな、そんなやつは。あれ、もうとまったな。坊、もう一どだけ、鳴らしてもいいよ」

「ほんと？……ああ、いい音だなあ。ぼくの妹のアキコがね、とつても、うた時計がすきでね、死ぬまえに、もう一ぺんあれをきかしてくれて、ないてぐずったのでね、薬屋のおじさんとこから借りてきて、きかしてやったよ」

「……死んじゃったのかい？」

「うん、おとしのお祭のまえにね。やぶの中のおじいさんのそばにお墓があるよ。川原から、おとうさんが、このくらいのまるい石をひろってきて立ててある、それがアキコのお墓さ、まだ子どもだもんね。それでね、命日に、ぼくがまた薬屋からうた時計を借りてきて、やぶの中で鳴らして、アキコにきかしてやったよ。やぶの中で鳴らすと、すずしいような声だよ」

「うん……」

【中略】

「おじさんも小さいとき、よくこの道をかよったの？」

「うん、町の中学校へかよったもんさ」

「おじさん、また帰ってくる？」

「うん……どうかかわからん」

道がふたつにわかれているところに来た。

「坊はどっちイいくんだ」

「こつち」

「そうか、じゃ、さいなら」

「さいなら」

少年はひとりになると、じぶんのポケットに手をつこんで、ひょこんひょこんはねながらいった。

「坊ウ……ちよつと待てよオ」

遠くから男の人がよんだ。少年はけろんと立ちどまって、そっちを見たが、男の人が

一の解答
うた時計の音色

三の解答
道が別れ、少年とちがう方面に行かねばならないので、「さいなら」と言った。

しきりに手をふっているの、またもどつていった。

「ちよつとな、坊^{ぼう}」

男の人は、少年がそばにくると、少しきまりが「じつはな、坊、おじさんはゆうべ、その薬のさ出るとき、あわてたもんだから、まちがえて「……………」

「坊、すまんけど、この時計とそれから、こい^{かい}ちゅうどけい^{どけい}、小さい懐中時計（※2）をひっぱり出して）に返してくれないか。な、いいだろう？」

「うん」

少年はうた時計と懐中時計を、両手にうけとった。

「じゃ、薬屋のおじさんによろしくいつてくれよ。さいなら」

「さいなら」

「坊、なんて名だったつけ」

「清廉^{せいれん}潔白^{けつぱく}の廉^{れん}だよ」

「うん、それだ、坊はその清廉……なんだっけな」

「潔白だよ」

「うん潔白、それでなくちやいかなぞ。そういうりっぱな正直なおとなになれよ。じゃ、ほんとにさいなら」

「さいなら」

少年は、両手に時計を持

り、やがて稲積^{いなづみ}（※3）のむ^むこ^こう^うた。歩きながら、なにかふにおちまもなく少年のうしろから自転車

「あッ、薬屋のおじさん」

「おう、廉坊^{れんぼう}、おまえか」

えりまきであごをうずめた、年よりのおじさんは、自転車からおりた。そしてしばらくのあいだ、せきのためものがいえなかった。そのせきは、冬の夜、枯木^{かれき}のうれ（※4）をならす風の音のように、ヒュウヒュウいった。

「廉坊、おまえは村から、ここまできたのか」

「うん」

「そいじゃ、いましがた、村からだれか男の人が出てくるのと、いっしょにならなかったか」

「いっしょだったよ」

「あッ、そ、その時計、おまえはどうして……」

老人は、少年が手に持っているうた時計と懐中時計に目をとめていった。

「その人がね、おじさんの家でまちがえて持つてきたから、返してくれっていったんだよ」「返してくれろって？」

三の解答

「さいなら」と言った後に、すぐ「坊、なんて名だつけ」と聞いているので、他に伝えたいことがあることが分かる。

二の解答のヒント

りっぱ・正直

三の解答

「りっぱな正直なおとなになれよ。」という言葉から、少年を応援するだけでなく、自分へ投げかける言葉にも取ることができる。

「うん」
「そうか、あのばかめが」
「あれ、だれなの、おじさん」
「あれか」

そういつて老人は、また長くせきいった。

「あれは、うちの周作だ」

「えッほんど？」

「きのう、十なん年ぶりで、うちへもどってきたんだ。ながいあいだ悪いことばかりしてきたけれど、こんどこそ改心して、まじめに町の工場ではたらくことにしたから、といってきたんで、ひと晩とめてやったのさ。そしたら、けさ、わしが知らんでいるまに、もう悪い手くせを出して、このふたつの時計をくすねて出かけやがった。あのごくどうめが」

「おじさん、そいでもね、まちがえて持ってきたんだってよ。ほんとにとつていくつもりじゃなかったんだよ。ぼくにね、人間は清廉潔白でなくちゃいけないっていったよ」

「そうかい。……そんなことをいつていったか」

少年は老人の手にふたつの時計をわたした。うけとるとき、老人の手はふるえて、うた時計のねじにふれた。すると時計は、また美しくうたいだした。

老人と少年と、立てられた自転車^{かれの}が、広い枯野^{かれの}の上にかげを落として、しばらく美しい音楽にきき入った。老人は目になみだをうかべた。

少年は老人から目をそらして、さつき男の人がかくれていった、遠くの、稲積^{いなづみ}の方をながめていた。

野のはてに、白い雲がひとつういていた。

※1がいとう……寒さや雨を防ぐために洋服の上に着る衣服。オーバー。

※2懐中時計……ポケットに入れて携帯（けいたい）する小型の時計。くさりやひもなどをつける。

※3稲積……かり取った稲（いね）を積み重ねたもの。

※4うれ……草のくきや葉の先。木の幹や枝の先。

（新美南吉『うた時計』出典）

一「うた時計」の音色は、どのように表現されていますか。□に当てはまる言葉を探して書き抜きましょう。

レベル9

天国で小鳥がうたつてでもいるような美しい

音楽

（やぶの中で鳴らすと、）すずしいような

声

- 二 少年の名前の
1 少年の中から
1 日進月歩
2 才色兼備
3 品行方正
4 七転八起

- 1 日進月歩……日に日に、絶えず進歩すること
2 才色兼備……優れた才能と美しい容姿の両方をもっていること
3 品行方正……行いが正しく立派で模範的であること、またその様子
4 七転八起……何度失敗しても立ち直ってやり抜くこと

レベル6

3

三 男の人（周作）は、少年（廉）に三回「さいなら」と言っています。「さいなら」の言葉を発したときの男の人（周作）の気持ちや思いを説明したものととして、最も適切なものを選びましょう。

レベル8

- 1 自分の今までの行動をふり返り、心を改めたいと思い、さらに少年を応援したい。
- 2 「さいなら」と言ったけれど、まだなごりおしく、伝えたいことがある。
- 3 少年と道がちがうことが分かり、お別れだなと思った。

「さいなら」一回目

3

二回目

2

三回目

1

四 原さんの学級では、物語を読み、心に残ったところについて、交流しています。原さんは、その理由について、心に残ったところについて、交流しています。原さんは、その理由について、のところで周作の心情の変化を伝えています。三十字以上六十文字以内で書きましょう。

レベル9

原さん  「私は、周作が廉に『清廉：潔白でなくちやいかんぞ。そういうりっぱな正直なおとなになれよ。』と伝えたところが心に残ったんだ。」

島さん  「なぜ、そこが心に残ったの。」

原さん 

「周作の心情が変化して、心を動かされたよ。最後の方で、周作は、自分に言い聞かせるように廉に『清廉：潔白でなくちやいかんぞ。』と言ったのではないかと思ったよ。」

「原さんの心に残ったところは、どこだった。」

島さん  「最後のところだよ。周作が、父親のうた時計を持っていつてしまったけれど、それを返すところがよかったな。親には面と向かって返すことができないはずかしさや後ろめたさを感じ、共感したよ。そして、周作の父親が音楽を聞き、目になみだをうかべたところも印象に残ったよ。」

原さん  「そうだね。そこもとても良いね。」

条件

- ・◆の印から書き、段落はつけない。
- ・周作の心情の変化が分かるように書く。

			それは、◆

60

30

四の解答例 ※未習の「廉」は平仮名で可

- ・それは、自分勝手だった周作が、廉（少年）と出会ったことによって、心を入れ替えたからだよ。 40・41
- ・それは、長い間悪いことばかりしていた周作が、廉の話を聞くことによって、清廉潔白な生き方をしようと思ったからだよ。 56～58
- ・それは、親不孝だった周作が、廉とのふれ合いを通して、自分の今までの生き方を反省したからだよ。 46・47